

国際課活動レポート

◆台湾訪問（6月7日～9日）

仁坂吉伸和歌山県知事が観光客誘致及び県産品の販路拡大を目的に台湾を訪問しました。現地の訪日大手旅行会社や食品輸入卸・小売企業へのトップセールスを行うとともに、和歌山所縁の文化施設「紀州庵」を会場に現地旅行エージェントやメディアを対象とした観光セミナーを開催しました。また、国立国父記念館や国立台湾大学図書館、台湾經濟部などの関係機関を訪問し、和歌山県と台湾との交流促進を図りました。



◆出張講座

4月7日、中国語担当黄国際交流員による出張講座が田辺市龍神村安井の龍神市民センターで行われ、小学2年生から5年生9人が参加しました。黄国際交流員は中国の文化などを子どもたちに紹介し、子供から別れ際にドングリや木で自作したアニメ「トトロ」のキャラクターをモチーフにした置物をプレゼントされました。



◎出張講座は和歌山県内の小学校、中学校、高等学校及び高等専門学校を対象として黄国際交流員が行っています。

ご希望の方は和歌山県国際課073-441-2057 または
e0223001@pref.wakayama.lg.jpまでお問い合わせ下さい。

◆インド・マハラシュトラ州世界遺産地域次世代育成支援事業

和歌山県で実施している世界遺産の保全や継承などの取り組みを、インド・マハラシュトラ州に紹介する次世代育成支援事業の一環として、同州の生徒や教員が研修に訪れました。一行は、田辺市の本宮中学校、東陽中学校を訪れて生徒たちと交流を行いました。熊野本宮大社では、本宮中学校の生徒が「語り部」を務め、インドの生徒を案内しました。

また、この研修を視察し、マハラシュトラ州の世界遺産であるアジャンタ、エローラの石窟群の保全に役立てるために、同州観光開発公社のビジェイ・ワグマシ総裁ら州政府幹部も、本県を訪れました。幹部一行は14日に仁坂知事を表敬訪問し、両県州の今後の交流の進展について意見交換を行いました。



異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さんこんにちは。日本もいよいよ夏休みに入り、旅行シーズンが到来していますね！夏休みを利用してサイクリングに行く、という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

和歌山県では今「サイクリング王国わかやま」を掲げ、ブルーライン（サイクリングロード）やサイクルステーションの整備が進むなど、自転車で旅しやすい環境が整ってきています。

今回は元祖自転車王国・中国から、現在の自転車事情をご紹介します。

中国といえば、通勤時間帯には道路を埋め尽くすたくさんの自転車！というイメージをお持ちの方も多いかもしれません。ですがそんな光景も今や昔。経済成長に伴い自動車が増え、大気汚染や慢性的な渋滞を引き起こすなど大きな社会問題にもなっています。そんな中、エコで健康的で経済的な自転車が、今また脚光を浴びているのです。

最近中国で急速に普及したのがシェア自転車です。これは日本の一般的なレンタサイクルとはちょっと違います。専用のステーションはなく、シェア自転車は、街中のいろいろな場所に置かれて（乗り捨てられて）おり、携帯の専用アプリをダウンロードして初期登録を済ませておけばすぐに利用でき、電子決済なので現金も要らず、どこでも自由に乗り捨てが可能、と手軽で大変便利です。

私が中国に赴任した2015年当時、このような自転車は全く見かけませんでした。しかし2016年の後半から急速に広まり、今や中国各地の街角で見られるようになり、あっという間に市民権を得てしまいました。

参考に、私のいる青島で一番目にするシェア自転車「mobike（中国名：摩拜单车）」の使い方をご紹介します。

- ① まずは携帯に専用アプリをダウンロード。
- ② 初回登録を行い、電子決済でデポジットを預けます。
- ③ 自分の近くにある自転車を探します。（アプリのマップ機能でも探せます。）
- ④ 自転車を見つけたら、自転車に付いているQRコードを読み取りロックを解除。
- ⑤ 乗ります！
- ⑥ 使い終わったら、邪魔にならない所に止め、後輪についているロックをかけます。
- ⑦ ロックがかかると利用時間により料金が計算され、電子決済でチャージしていた金額から差し引かれます。ちなみに料金は30分毎に1元（約16.7円※）です。



青島で見かけるシェア自転車。アプリでQRコードを読み取るとロックが外れる。

ちょっとした移動をする時などには本当に便利で、たくさんの方が利用しています。

私が今住んでいる青島は、丘陵地で起伏が多く、自転車利用者が少ない土地柄だったのですが、そんな青島でも乗り捨てできる手軽さが受けて、自転車を利用する人がとても増えました。もともと自転車利用者が少ないので、道を走る自転車のほとんどがシェア自転車です。

繰り返しになりますが、青島にシェア自転車が入ってきてからまだ1年もたっていません。私が中国に来てから2年になりますが、本当に日々何かしらの変化が起こっており、驚きの連続です。新しいもの、より良いものを求めて、変化を恐れないところが、中国の経済成長の原動力なのだと改めて感じました。

※レートは2017年7月11日現在

〈宮本実穂（平成29年4月より中国山東海峽国際旅行社で研修中）

文化紹介

『携帯決済』

◎黄中国語交流員による文化紹介です。

5月の連休を利用して、一時帰国をしました。大学時代の日本人の先生を招待して、一緒に上海市、蘇州市などを観光してきました。移動手段は列車、高速バス、タクシーでした。中国では列車、高速バスなどを利用するときは事前に切符を購入する必要があります。

以前、私たちは発売日に窓口まで行って、長い行列に並んで切符を手に入れていました。大学時代、春節帰省の切符を買うために、朝の四時から窓口に並んだ経験もあります。しかし今回は、一切並ばずに切符を買うことができました。携帯決済のおかげです。今回は中国へ帰る前にネットで列車と高速バスの切符を予約して、中国到着後は、利用する駅の自動販売機で発券し乗車しました。日本の携帯ですので、中国にいる期間中は携帯使用料が高いため、いつもFree Wi-Fiが繋がるところだけで利用していました。蘇州を観光したとき、タクシーに乗り、現金で支払おうとすると、運転手さんから「携帯で払ってもらえないか、おつりがいいから。」と言われました。この言葉は今回の帰国中、最も多く聞いた言葉です。家族や友達にこのことを話すと、みんなに笑われました。「今、何千元も持って移動するのはあなただけだよ。私たちは外出するとき財布なんかもっていかないよ」。

このように携帯決済機能のおかげで現金を持ち歩く必要がなくなりました。中国在住の私の妹たちは普段の生活の中で、大きなデパートから屋台まで、ほとんど現金なしで買い物できています。



ゲストコラム (ALT)

名前：ブレンダン・アレン

出身地：オーストラリア 西オーストラリア州 エスペランス

職業：JET プログラムのALT（外国語指導助手）として英語を教えています。

和歌山へ来た理由：

最初に日本へ来たのは2013年8月で、交換留学生として立教大学で経営学を学ぶためでした。その時に日本文化の多くの側面を学び、また、富士山・広島・長崎など様々な場所を訪れました。オーストラリアに帰国後、また日本に戻りたいと思いました。理由は日本人が持つ親切さと他人に対する敬意に感動したからです。また、お気に入りの“豚骨ラーメン”など、日本の食べ物を好きになったことも理由のひとつです。JET プログラムに応募し、留学生活を送った東京とは全く違う場所、和歌山の山間部にある本宮に配属されました。

和歌山の魅力・出身地との共通点や違い：



西オーストラリア州エスペランス

和歌山で最初に私の心を掴んだのは、印象的な海岸線や豊かな緑の山々、見たこともないほど澄んだ青い川でした。和歌山は古代の寺社や温泉、世界遺産の熊野古道などの魅力が詰まったとてもスピリチュアルな場所のように思います。和歌山は日本の秘密の場所、真の日本を経験できる場所で、冒険を楽しむことができます。

私の生まれたオーストラリアとの大きな違いは、壮大な景観と、険しい海岸線と深い緑の山のコントラストです。オーストラリアは緑が少なく、内陸部の大部分は暑く乾燥した平野です。私の故郷エスペランスは白良浜を思い起こすようなところで、真っ白い砂浜が広がり、オーストラリアでも最良のビーチがいくつもあります。人口1万人ほどの漁師町で西オーストラリア州パースから車で東に7時間ほどのところにあります。エスペランス湾は数十もの島々に囲まれ、釣り・シュノーケリング・ダイビングのスポットがたくさんあります。和歌山同様、エスペランスは都会の喧騒から離れたオーストラリアの秘密の場所であり、美しいビーチや自然が魅力です。

日本の気候もオーストラリアと大きく違います。乾燥した暑さの長い夏とほとんど雨の降らない温暖で短い冬に慣れていたので、約4年経った今も日本の夏はとても蒸し暑く感じますが、日本の明瞭な四季のコントラストがとても好きです。和歌山は春と秋が特に美しいですが、私は夏が好きです。ビーチでくつろいだり、本宮の私の家の近くを流れる美しい川で泳いだりできるからです。

メッセージ：

外国文化に興味を持っているなら、ホームステイか交換留学で海外に行ってみることをおすすめします。海外に住み、異なる文化を経験することで、様々な人との出会いにより視野が広がり、自信や自立心が得られます。当時日本や日本文化についての知識がほとんどなかった私にとって、半年の留学生活は驚きの経験でした。すぐに私は日本文化を受け入れ、日本で生涯の友を得ることもできました。人生において忘れることのできない経験のひとつです。



立教大学での交換留学



小学校での英語授業